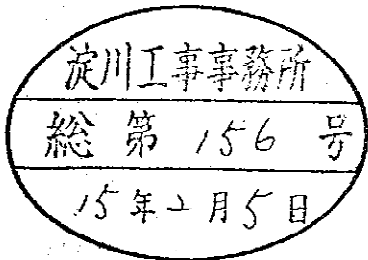


山部第14号
平成15年2月3日国土交通省 近畿地方整備局
淀川工事事務所長 様京都府相楽郡山城町
山城町長 藤原 秀

淀川水系河川整備計画に伴う要望について

淀川水系流域委員会におかれましては、川として本来あるべき姿や川の想いを広く住民や自治体から意見を聴取し、整備計画を決定されますことに敬意を表します。

本町と木津町及び精華町の境界を流れます木津川は、いにしへの昔より泉川として、歌にも読み、南山城の地域住民にとってはかけがえのない母なる川であります。

しかし、今日の木津川は生い茂る草木に阻まれ、川辺に近づくことすら困難な状況であり、地域住民が川に親しめる空間が余りにも少なく、川に親しみ、川と共に生きる、川のイメージ、歌にもなされた泉川とは程遠いものとなっております。

木津川がいにしへの姿を取り戻し、兩岸に位置する人々の交流の拠点として、地域住民に親しまれ、愛される、川とするため、早急に繁茂している草木の伐採を願い、美しい川の景観を保全頂きたく、下記の事項について整備計画に位置付け頂きますよう意見を提出いたします。

記

1. 淀川水系（木津川）の問題点について

木津川の豊かな自然と広大な空間は、水と緑のオープンスペースとして生物や人間にとって貴重な存在であります。しかしながら人々が集える公園緑地がなく、一部の農地以外は雑草・雑木等が生い茂り除草等により維持管理されているだけであり、水辺に近づけないほど荒廃している地域があります。

また、本町と隣接する木津町・精華町などでは、関西学術研究都市の建設が進み、市街化が進行しています。しかし、本町は木津川により分断されており地域格差が生じております。

2. 淀川水系（木津川）の理想及び要望について

1. 木津川の堤防は砂山となっているため、豪雨時に破堤の恐れがないよう堤防の強化を要望します。
2. 堤内地の有効な排水機能の確保のため北河原樋門・西殿樋門の改修及び堤外地の河床低下を行うとともに、集中豪雨にも対応できるよう内水排除施設の整備を要望します。
3. 開橋より北の堤防敷きは国道24号と同一の機能を有しており市街地形成においても支障があるため、国道24号と木津川堤防の分離を要望します。
4. 関西学術研究都市と本町の中心を流れる川として、関西学術研究都市と連携し、人々が集

い、緑と水に触れ合い交流の拠点となる「国営山城木津川親水公園」の整備を要望します。

淀川水系（木津川）の整備実施方法

河川空間の利用形態は、見通しの良い広々とした連続空間の中で、陸地では体験できない水・緑・生物などとの直接的なふれあいを中心的に展開しています。

緑と水に触れ合える「国営山城木津川親水公園」の整備実施内容について

① 開橋より北部（北部地区）

除草等の維持管理の強化を図り新たな緑地の形成。

お茶の樹園地の保全推進。

② 開橋付近『水辺空間公園』（中部地区）

人々が集え、水と緑に触れ合える空間として、「オートキャンプ場」「ミニパーク（子供が遊べる）」「親水広場」「駐車場」等の整備。

③ 開橋より南部

本地区は農業振興地域であり、優良農地の保全し農業環境を利用した空間として、保全管理農地の貸農園化。

④ 町立木津川コミュニティ運動広場の整備

樹木を多くし緑化を推進。

⑤ 泉大橋付近『親水公園』

旧奈良街道（山背古道）の復元もかねた「潜没橋」を築造し、豊かな水辺空間の形成を図るとともに、笠置を起点とした「カヌーやボート遊びの到着地」の整備。

水の浄化を促進する植物の植栽や竹炭等を使用した親水公園を実現するため、「せせらぎ広場」・「湿生植物園」や子供が遊べる「ミニパーク」「親水広場」等の整備により水と親しむ空間整備。

⑥ 木津川沿道

水辺レクリエーションの充実を図る一環として、水と緑のネットワークが必要と考える。

そのため、①～⑤までの親水公園・農地等を緑道（遊歩道）・緊急車両道路によってつなぐための整備。

なお、緊急車両道路については、大阪湾まで続くよう整備を要望します。



堤防上をとおり国道24号



上狛南部の優良農地



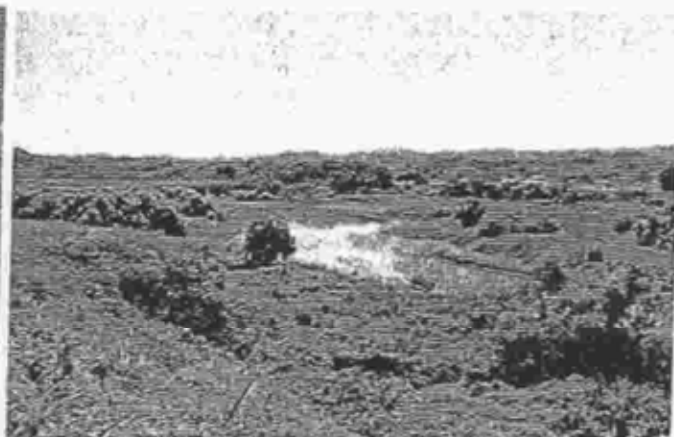
旧泉大橋(潜没橋予定地)



西殿橋門



町立木津川コミュニティ運動広場



水と緑にふれあえる木津川へ